

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成20年6月2日

【評価実施概要】

事業所番号	1570500312
法人名	医療法人 立川メディカルセンター
事業所名	認知症高齢者グループホーム 米山五楽庵
所在地	新潟県柏崎市大字茨目字二ツ池2071番地1 (電話) 0257-32-2010
評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階
訪問調査日	平成 20年 4月 24日

【情報提供票より】(20年 3月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	16人	常勤	16人、非常勤 0人、常勤換算 16人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階 建ての 1階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食 330 円	昼食 530 円	
	夕食 440 円	おやつ 円	
	または1日あたり		円

(4) 利用者の概要 (20年 4月現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	2 名	要介護2	11 名
要介護3	5 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85.4 歳	最低 76 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	柏崎厚生病院 刈羽郡総合病院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム米山五楽庵」は、医療法人が母体組織であり、病院と介護老人保健施設がある敷地の一角に建っている。体調の変化にすぐ病院の看護師が対応してくれたり、入院・入所にケースワーカーが対応するなど、病院との協力体制が確立され、入居者本人と家族の安心につながっている。木造平屋の建物はゆったりと作られ、木のぬくもりが感じられる落ち着いた空間となっている。中庭の芝生で散歩を楽しんだり、その隣の広い畑で草取りや農作業を楽しんだりすることができる。隣地が里山で自然豊かな環境であり、四季の変化を感じることが出来る。人家から離れた場所にあるため、地域交流には苦慮しているが、積極的に地域に出かけていくことを心がけ、地域の祭りやイベントに参加し、楽しみごとのある生活作りに取り組んでいる。職員は創設時に込められた思い「五楽」(語楽・遊楽・行楽・想楽・慈楽)を追い求めると共に、家族・地域住民との信頼関係を大切にし、開放的で明るいグループホームを目指して日々のケアに取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価の改善点について全職員で話し合い、改善に向けて積極的に取り組んだ。「玄関まわり」には、可愛い表札を飾ったり花鉢を置いて、親しみやすい玄関になるよう工夫している。「家族との関係づくり」では、訪れた家族がくつろいで過ごすことができるように、ホールにお茶道具一式を用意し、いつでも利用できるようにしている。また、家族を呼んでの食事会も開催し、本人にも家族にも好評で、今後も続けていく予定である。「事故報告書の活用」では、事故原因や対応策を十分に検討し記録に残すことで、今後事故が起きないように全員が気をつけるポイントが明確になった。「地域の人たちとの交流」では、母体施設の送迎車を利用して、天候や本人の希望に応じて花見や買い物に出かけ、出先での交流を深めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の全ての項目を職員が分担して取り組み、その後全員で評価を再確認しながら、確定していった。日頃のケアを振り返り、改善点への取り組みについて話し合った。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進委員に町内会長や行政関係者、利用者代表や家族に入ってもらい、グループホームの現状や地域密着型サービスとしてのホームのあり方などについて討議し、地域に溶け込むための意見などをお聞きしてきた。ホームに訪れてくれる人たちを増やすためにも、今後、保育所関係者、学校PTA関係者、老人会役員、民生委員の方たちからも会議に出席してもらい、利用者だけでなく、参加した全ての人を楽しめる企画について話し合っていくことで、ホームを取り巻く地域のつながりがいっそう広がっていくことと考えられる。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法:運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族が訪問しやすいように食事会を計画したり、くつろいでもらえるようにお茶の用意をしている。苦情対応の係を明示すると共に、意見箱も職員の目の前においては投函しにくいだろうと、職員の眼がすぐには行かない玄関に設置するなど、家族の思いや立場に配慮している。写真を沢山盛り込んだ五楽庵たよりを作り、家族にも発送してホームでの様子をお知らせしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホーム便り「五楽庵たより」を発行し、町内会長や行政に届けているが、日常的に訪問してくれる地域の人はまだ少ない。そこで、関連施設の送迎用の車を使って、地域の祭りやイベント、買い物に積極的に出かけるように努めている。利用者の思いを大切にし、行きたいところやしたいことを実現していくことで、行く先々で交流が生まれ、生きがいと楽しさのある生活になってきている。今後、地域の人が訪問したときにホームの玄関がどこか分かりやすいように、見やすい看板の設置が望まれる。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今までの理念「五楽」に加えて、地域密着型のサービスとしての理念をかかげて、地域に根ざしたホームとなるように取り組んでいる。		
		理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	住宅地から離れた場所にあるため、「来てくださるのを待っていてはダメ。」と、出来るだけ時間を見つけて地域の中に出かけていく取り組みをしている。母体施設の送迎車両と運転員を使うことが可能で、地域の中に出かけていくことで、ホームの存在を知ってもらっている。		
		家族や地域への理念の浸透			
2 - 2	3	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるように取り組んでいる	「五楽庵だより」を発行して、家族や町内会長、行政に配布して、ホームの理念を理解してもらえるよう取り組んでいる。写真をふんだんに取り入れて、わかりやすく親しみやすい内容になっている。		概ね3ヶ月に一度くらいの発行であるが定期的な発行でないために、伝えるべき情報が家族に十分に伝わっていないとはいえない。毎月定期的に発行し、ホームの近況を伝えることで、家族や近隣の人たちにホームのことをもっと理解していただけたと考えられるので、今後の取り組みに期待したい。
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	民家から離れた場所にあるため、なかなか地元の人気が立ち寄れる場所ではない。それで、地域の祭りやイベントに積極的に参加して、こちらから地域に馴染んでいこうと努めている。祭りの時には、ホームに神楽舞が立ち寄ってくれるなど、少しずつ交流が生まれている。		敷地内に病院や老人保健施設があるので、グループホームがどこにあるのか、玄関はどこなのか、初めて訪問する者にはよくわからない。わかりやすい看板を立てることで、グループホームの存在をもっと知ってもらえ、安心して訪問してもらえるのではないかと期待したい。
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の改善点については全職員で話し合い、改善に向けて積極的に取り組んだ。今回自己評価をするにあたっては、職員で項目を分担して評価に取り組み、その結果を全職員で再確認しながら確定していった。日頃のケアを振り返り、改善について話し合った。		
		運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、町内会長や行政職員にも加わってもらい、ホームの現状を話し合う一方で、地域密着型サービスとして地域に溶け込むための知恵や利用者にとって快適な生活になるための意見を聞いて、日々のサービス向上に活かすよう取り組んでいる。		今後さらに、学校のPTAや老人会、保育園の先生や民生委員など、ホームの活動を助けてくれると思われる人たちにお願いで運営推進会議に同席してもらい、よりいっそうホームの現状を理解してもらおうと共に、協力体制を整えていくことを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	柏崎市にはグループホームの連絡会があり、ここでは他のホームの職員はもとより、市役所の担当者ともいろいろな話をし、相談にもなってもらっている。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については全職員で研修し、何が虐待にあたるのかを学ぶと共に、言葉や態度に不適切なことがないかどうか、お互い注意しあって気をつけている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭管理については金銭出納帳のコピーを毎月家族に送付して報告している。暮らしぶりに関しては写真をふんだんに取り入れた「五楽庵だより」を送付して喜ばれている。健康状態については必要に応じて家族に連絡を取っている。		せっかく毎月金銭出納帳のコピーを送付しているのに、五楽庵だよりも毎月発行し、その紙面の一部を個人のお知らせコーナーとして手書きで書き込むことで、個々の利用者の様子を家族に伝える機会となり、家族の安心と親しみがいっそう深まるのではないだろうか。取り組みについて検討を期待したい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情対応の係を明示すると共に、意見箱を置く位置を、職員から見えにくい場所に変えて、家族が意見箱に投書しやすいよう配慮している。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	母体の組織運営者に対して、ホーム職員の考えを述べる機会が設けられ、意見や提案を聞いて運営に反映するように取り組んでいる。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同一組織内の他の職場に比べ、ホーム職員の異動は極力控えている。やむをえない場合は、利用者నికిちんと話して不安や混乱を軽減するよう配慮している。		職員の異動は家族にとっても不安なことであるので、新しい職員の顔写真などをお便りの中に載せてお知らせするなど、さらなる工夫が期待される。
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが行われている	管理者と職員とで十分に検討しながら各種マニュアルを作成し、状況の変化に応じてマニュアルの見直しも行われている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体組織での勉強会や外部研修にも極力出席できるようにしている。介護福祉士の資格取得に向けては、母体組織の理学療法士が実技の指導をするなど、積極的に職員の資質向上に取り組んでいる。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内にある3つのグループホームでの連絡会が発足し、相互に情報交換や研修を受け入れて、共にサービスの向上を目指して取り組んでいる。		
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	母体の病院にカウンセリングの制度があり、早期にストレスによる体調の変化に対応できる体制になっている。管理者は職員が気楽に発言や相談が出来るよう配慮している。		
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居を決めるにあたっては、ホームを見学をしたり、3日ほど体験入居してから決定するように本人と家族に勧めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	漬物の作り方や畑仕事のやり方など、職員が利用者から教えてもらい、利用者にも人の役に立ったという喜びを味わってもらえる場面作りをしている。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が訪ねてきやすいように食事会を計画し、実施した。利用者と一緒に食事をする事で和やかな雰囲気となり、職員や他の家族もいろいろな話が出来てよかったと好評であった。今後も年2回くらいは取り組んでいき、家族の気持ちを引き出すようにして、一緒に利用者の生活を支えていく関係を作っていくとしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までのMDSアセスメントの他に、一部センター方式のアセスメントシートを活用し、本人の思いは何か、今まで以上によく観察し、言葉に耳を傾けるようになった。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からはもとより、家族からも細かに聞き取り、これまでの生活歴や暮らし方の把握に努め、できるだけ本人の今までの暮らしかたが継続できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成にあたっては、本人と家族の希望を聞くことはもとより、ミニカンファレンスを開いて、課題とケアのあり方について、よりよく暮らすためのアイデアを話し合っている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに介護計画を見直すほか、状況変化に応じてその都度見直して、現状に即した計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	不安や思い込みが強く落ち着かない利用者には、リビングの直ぐそばの部屋の人と交換して移動してもらい、さりげなく見守りながら、不安を取り除くような言葉かけをして、穏やかに過ごせるように配慮している。またゆったりしたホームのリビングを利用して、昨年の中越沖地震で被災された老夫婦を引き受けて、ホーム内で半年間共に生活をしてもらったという実績がある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医に引き続き受診できるよう支援している。また、母体病院が同じ敷地内にあることからすぐに受診することができ、本人と家族の安心感につながっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化したときや終末期についての対応指針を、家族と医師・看護師を交えて話し合っている。時間の経過と共に、家族の気持ちが変わってくることもあるため、状況に応じて家族との話し合いの場を設けている。		ホームで看取りをするということであれば、家族が宿泊することも視野に入れた支援体制に取り組むことも期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	各部屋にトイレがついているので、トイレ誘導や着替えなど、利用者の羞恥心やプライドに配慮して、さりげなく居室に誘導して行っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかな流れは決まっているが、それにとらわれず、天候を見て花見に出かけたり、希望を聞いて買い物に出かけたりして、楽しく充実した生活になるように努めている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が食事の準備や盛り付け、配膳、片づけを一緒に行っている。職員も一緒に食事をしながら、会話をしたり、食べ残しがないようさりげなくサポートして、楽しい食事になるよう支援している。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	夜だけおむつ使用の人はいるものの、日中はおむつは使用せず、全ての人トイレで排泄している。数名が紙パンツや尿取りパットを使用しており、時間を見てさりげなくトイレ誘導し、パット交換を手伝うなど、気持ちの良い状態を保てるよう支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の入りたい時間に入浴できるよう支援している。一人で入浴できる利用者にはドア越しにさりげなく声をかけるなど、一人で入れるという本人の気持ちを尊重するようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホワイトボードに献立を書いたり、習字でホームの名前を書いてもらって玄関に飾るなど、皆の役に立っているという喜びを見出す場面づくりに努めている。中庭には広い畑があり、今年はサツマイモを植えて、収穫の喜び、落ち葉を集めて焼き芋をする楽しみを味わいたいと計画している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	母体施設の送迎車を使って、お花見や買物に出かけ、時には外食をするなど、楽しいことがたくさんある生活になるよう支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束はしないという意識を持って、拘束のないケアを実践している。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵をかけておらず、利用者は自由に出入りすることが出来る。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が起きたときは、その原因と対応経過、事故防止対策など話し合ったことを記録し、再発防止に活用している。		
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	母体病院の看護師から救急法の講師となってもらって、研修を積んでいる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	日中の避難訓練はもとより、夜間職員一人体制のときの状態を想定して訓練を積んでいる。避難経路の確保や足元の照明など、訓練を通して気付いたことを次の訓練につなげて活用している。		新潟県中越沖地震の時には、母体病院や関連施設に避難し、そこには水分や食料品の確保が充分なされていた、心配の要らない状況であった。今後、ホームが地域の人たちの避難場所となる可能性もあり、いざというときの助け合いのためにも日頃からの交流が大切と考えられるので、地域と顔なじみの関係作りが出来るよう、いっそうの取り組みをお願いしたい。
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体組織の管理栄養士が栄養バランスを考えた献立を立て、利用者の希望も取り入れながら食事を作っている。肥満や持病など個々の利用者の状況に応じて摂取量を調整したり、水分補給が充分出来るよう気をつけている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>木のぬくもりを活かした広いリビングで、思い思いの場所で心地よく過ごせるように居場所づくりがされている。リビングに置かれたベンチ風の長イスには暖房が入るようになっていて、冬も暖かく過ごせて快適である。広い窓からは中庭の芝生が見え、畑の向こうには自然豊かな里山が広がって、季節感を味わうことが出来る。玄関まわりにも草花や観葉植物の鉢を並べて、親しみやすく入りやすい雰囲気作りに努めている。</p>		<p>中庭に面して作られた木製のテラスは、雪の被害や地震の影響で壊れて修理が必要である。間違っって上に乗ると大変危険であるので、早急に修理をして、再び利用者テラスでお茶のみを楽しめるようにしてほしい。</p>
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ベットや整理タンス、テレビなどはホームの備品であるが、思い出の写真や手作りの作品を飾って、その人らしい居室になっている。</p>		